

韓国慶州市にある、新羅時代の宮城の苑池「雁鴨池」発掘の調査が、一九七五年から二年余にわたって行われていたが、その発掘報告書が、早くも昨年末に同国文化財管理局から刊行された。図版篇ともに二冊からなる大冊であるが、なかに八世紀代の木簡が四十七点含まれているのは注目される。「天宝十載」「宝応四年」等中国紀年をもつものはか干支年のものがあり、また付札の切り込み状のつくり方が、居延漢簡の付札に似ているのは興味深い。

(編集子)